

河川内の堆積土等除去計画 2021

策定の趣旨

- ① 平成30年7月 豪雨など、近年の頻発化・激甚化する水災害を踏まえ、県民の生命や財産を守るため、河川の適切な機能を維持することが極めて重要となっている。
- ② 洪水時に流れを阻害する河川内の堆積土や樹木を適切に除去し河道が本来持っている流下能力を確保・維持することにより、浸水被害の軽減を図り、人命を守ること、社会経済活動への深刻な被害を軽減することを目的とし、これまでの成果や、新たな課題を踏まえ「河川内の堆積土等除去計画2021」を策定する。

計画の概要

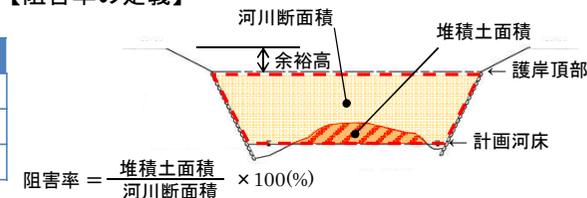
- ① 計画期間：令和3年度～令和7年度(5年間)
- ② 投資予定額：概ね70億円
- ③ 実施計画延長：L=201.0km(堆積土), L=4.2km(樹木)

これまでの取組状況と成果

◆治水上の影響と目標

レベル	治水上の影響	阻害率(堆積土)	堆積土・樹木の目標
1	治水に与える影響が小さいと判断できる状態	概ね15%未満	—
2	治水上の影響があり、重点的に監視しながら対策を検討する必要がある状態	概ね15～20%	全延長の1割削減
3	治水上の影響が大きく、緊急に対策を実施する必要がある状態	概ね20%以上	全延長の解消

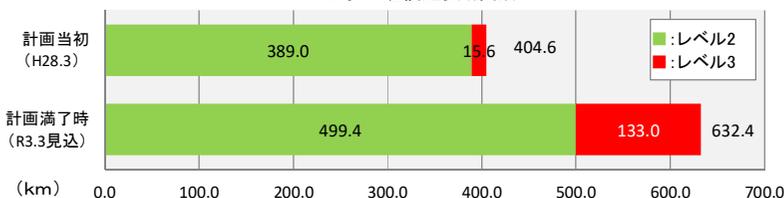
【阻害率の定義】



◆計画期間中の土砂堆積状況

平成30年7月豪雨により、大量の土砂が河川内に流入したため、堆積延長が大幅に伸びた。

土砂の堆積延長(累計)



◆取組状況と成果

レベル3延長が大幅に増加したが、レベル3の解消とレベル2箇所のうち優先度の高い箇所の除去を実施した。

レベル	堆積土除去延長		樹木除去延長	
	計画	実績(見込)	計画	実績(見込)
2	114.8km	106.5km	5.6km	6.9km
3	15.6km	133.0km	0.6km	0.6km
合計	130.4km	239.5km	6.2km	7.5km

これまでの取組を踏まえた課題

- (1) 大規模な出水後の速やかな土砂堆積状況の把握
- (2) 土砂堆積しやすい箇所の把握と堆積しにくい仕組みの検討

「ひろしま川づくり実施計画2021」の関連する取組

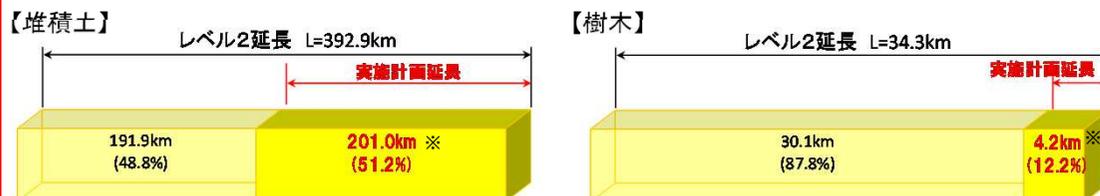
- (1) 人口・資産の集積状況や重要施設の立地等を踏まえた実施箇所の重点化
- (2) 計画的な維持管理による既存施設の機能維持
- (3) 河川管理の高度化・効率化

実施方針

- (1) 管理基準に基づき、現計画において定めた長期目標を達成するとともに、**本計画期間内の成果目標を設定**し、計画的な事業実施に努める。
- (2) 土砂堆積状況等の把握については、引き続き目視による河川巡視・点検を行うとともに、**新たにデジタル技術も活用した状況把握に取り組む**。
- (3) 大規模な出水などによりレベル3が発生するなど、**緊急的な対策が必要となった場合は、優先的に対応する**。

実施計画延長

レベル2の箇所を対象に、人口・資産の集積状況や重要施設の立地等を指標とした優先度評価などにより、対策効果の高い箇所を選定した。



※ 1年間あたり18kmがレベル1からレベル2へ移行すると想定しており、計画期間内でのレベル2削減延長は全体の約3割(残延長約280km)を見込んでいる。

※ 実施箇所外においても、巡視等により流れを阻害する樹木を把握した場合は、伐採を行い河川の適切な機能を維持する。

長期目標・計画期間内の目標

長期目標	
堆積土・樹木	レベル2以上の延長を令和17年度末※までに半減させる。
※ 現計画の開始年度である平成28年度を始期とした20年間の数値目標	
計画期間内の成果目標	
堆積土・樹木	<ul style="list-style-type: none"> ・レベル3の無い状態を維持する。 ・レベル2の箇所のうち、一定規模の洪水により河川背後地において床上浸水被害、役場や重要施設(避難所、医療施設など)に浸水被害が発生するおそれのある箇所の解消を目指す。